

【学術変革領域研究（A）】

区分 I



研究領域名 イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

くろき ひでみつ
黒木 英 充

領域番号： 20A104 研究者番号：20195580

【本研究領域の目的】

イスラーム文明には水平方向の人間関係作りに長けてきた特質があります。そのコネクティビティ（関係作り）の蓄積と信頼構築の諸相を明らかにするとともに、そこから得られる暗黙知を、言語化・可視化して戦略知として表現して、現代世界にて深刻化する分断状況を解決するための新たな視座を確立することを目的とします。

イスラームを軸にして、コネクティビティの現場で信頼が創り出されるプロセスを、1400年の時間と地球全体の空間を視野に入れて洗い出します。こうした水平方向の関係作りの問題は、垂直方向の権力関係構築の問題に比べると、イスラーム研究者が何となく意識しつつも、研究の俎上に載せてこなかったものです。また従来の信頼研究においても取り上げられていない、新しい研究領域です。この変革的な領域の課題に対して、諸学問分野の研究者が協働して取り組む、地域研究の大規模プロジェクトです。

【本研究領域の内容】

イスラーム文明は、人々が広域にわたって高い移動性の中で暮らす社会で発展してきました。人・モノ・情報の移動を、「イスラーム経済」「言語・学知の変換」「移民・難民」の観点からコネクティビティの問題として捉えます。通地域的で多元的な文化的環境の中に存在する、様々な境界をどのように越えるのか、そこで他者との間にどのような関係を作り、信頼を構築するのか、がテーマです。

また、信頼が構築される際の、より高い次元での交渉の問題を、「イスラーム国家間関係」「思想戦略」「平和構築」の観点から扱います。ときに厳しい対立関係にある他者であっても、どのようにしたたかな関係作りをして信頼を構築してきたのか、その戦略知を過去から現在の様々な局面の中から探り出す研究を行います。

図1 イスラーム文明—多民族・多宗教 1400年のヨコへの広がり



さらに、近年進展の著しい人文情報学の成果を取り入れて、これらの観点から明らかにされる暗黙知を「見える化」することに挑戦します。この作業を通じて、コネクティビティと信頼構築の研究における新たな問題発見も期待されます。

【期待される成果と意義】

本研究領域に参画する研究者は、日本国内はもちろん、世界各地の関連研究機関や組織との間でのコネクティビティを高め、共同調査・研究を推進して、「イスラーム信頼学プラットフォーム」を形成することを目指しています。こうした研究ネットワークは、本研究領域の研究成果として発表される様々な書籍やオンラインデータなどとともに、今後の世界のイスラーム研究の発展のために重要な基盤を提供することでしょう。また、成果の市民社会への還元も重視して、「シビルダイアログ・キャラバン」という対話の機会も設けます。

50年後の世界ではイスラームがキリスト教を抜いて世界最大の宗教人口になると推測されています。その人口重心はアジア・アフリカ地域にありながらも、イスラーム教徒は今後も世界全域で、コネクティビティを発揮して信頼構築を展開することでしょう。イスラームをめぐる社会の分断が深刻化する現在、コネクティビティを通じて地球全体の問題に取り組むことにより、今後の国際社会における日本の針路を決めるために必要な、正確なチャートを提供したく考えています。

【キーワード】

コネクティビティ：「つながりをもてること」を意味し、「接続性」とも訳されます。本研究領域ではコネクティビティのアラビア語訳の言葉にある「主体的に動いて関係を作る」という意味で使います。

【領域設定期間と研究経費】

令和2年度－6年度 575,700千円

【ホームページ等】

<https://connectivity.aa-ken.jp/>
connectivity_jimukyoku@tufs.ac.jp